

第33回中央委員会開催

第33回中央委員会を開催する

2月9日、都内において第33回中央委員会を開催し、全国から中央委員が参集し、安全確立・2020春闘勝利・組織強化を柱とした当面の活動方針を真摯な討議を経て満場一致で決定しました。

小笠原副委員長による開会挨拶後、委員会を代表としての大杉委員長挨拶では、現在の会社状況・組織課題・政策課題・2020春闘・人事制度等を述べられ、来賓挨拶ではJR連合中村部長より、安全問題・2020春闘・民主化への取り組み・政策課題等を中心に話されました。



大杉委員長

続いて、赤松中執より祝電メッセージが披露されたあと、辻村書記長から、第35回定期全国大会以降の活動経過を報告し、今後の活動方針（安全確立・2020春闘勝



開会挨拶 小笠原副委員長

利、政策課題・組織課題等への取り組み）が提起されました。質疑応答では、各中央委員より発言があり、辻村書記長が集約答弁し、今後の活動方針が満場一致で決定しました。続いて、小山中執より委員会宣言（案）が読み上げられ、満場一致で採択され、吉永中執による閉会挨拶後、大杉委員長による「団結頑張り」で会は終了しました。その後、場所を移動し懇親会を開催しました。



JR連合中村部長

発言者（主な内容を抜粋）

九州地区本部田代委員

・自己負担が生じないよう、交通費についての全額支給と、山の日や海の日など、祝日が増えたため、年間休日増を強く春闘要求で求めたい。
・乗務員の要員は、全国的に本当に足りているのか。

・組織については、九州ロジ労組を含めて、若手を育成に力を入れながら、九州連合として鋭意に取り組んでいきたい。

・トラックドライバー不足が進行するトラック輸送の省人化を促進するため、ダブル連結トラック実験等を国が主導して行っている。貨物鉄道においても、電力省力等を含めあらゆる実験を行っていると思うが、国から補助金がもらえるようJR連合とともに取り組んでほしい。



田代委員

東海地区本部橋爪委員

・先月組織拡大が出来た。改めて御礼申し上げる。今後も世話役活動を続けながら、地協や県協の力をもらいながら取り組んでいきたい。

・2020年度昇職試験について、現場は大混乱に陥った。2020年度の試験は、評価査定が終わった、7月以降に行うべきではないか。今回のように、評価結果を見込みで行う試験については、すでに評価結果が決まっているとも感じ、納得できない部分が多々ある。2021年度昇職試験においては、強く改善を求めたい。

・2020昇職試験について、メール等でいろいろな質問をさせて頂いたが、会社にすぐに確認して頂き、本部に対し大変感謝している。

・インフルエンザ等の感染症になった場合、現在は保存休暇や年休で処理される。春闘要求で、年休や保存休暇で処理せず有給休暇として処理することを求めたい。



橋爪委員

火災共済とセットで、地震、暴風雨などの被害を保障。

台風に限らず、突風、高波、津波、洪水、豪雨、雪崩れ、降雪などの被害を保障。地震風水害共済なら、さらに強盗や窃盗による被害に対しても共済金をお支払いします。



大切な家が災害にあったら
火災共済/地震風水害共済

みんなが暮らしをガード
交通共済

東北地区本部足利委員
 ・組織人員は減少の一途だが、何とか頑張っていきたい。
 ・本社とのダイヤ改正交渉でも「申」に出されていたが、乗務カバンの中身は多くの規定類でかなりの重量がある。規定類が多いため、シーパップや私物を持参する人は、乗務カバンに入りきらず、手提げバッグやリュック等で対応しており、せまい構内を歩行する際、触車する危険性が高まり、機関車乗降時は労災のリスクが高まる。これらを改善するため規定類のタブレット化を早期に求めたい。

・現在、乗務員だけが出勤前にアルコール検知器を使用しているが、保全員・操車や積み付け検査員等、構内に出て作業する人や車を運転する人においても、アルコール検知器を使用すべきではないか。昨年は触車事故が2件あり、各旅客会社でも重大労災が多かった。そのような時に万が一アルコール反応が出たら、会社の危機管理が疑われてしまう。
 ・1ヶ月に1回、シーパップ検診しなければならぬ。2ヶ月に1回とか3ヶ月に1回など何とかならないか。負担が大きい。



足利委員

北海道地区本部菊地委員
 ・青函共用走行問題については、JR連合ともに取り組んでいきたい。
 ・シニア社員の働き方について、本社が明確に働き方の基準を示すべきと考える。新規採用者を思うように採用出来ないことを考慮すれば、多くのシニア社員が必要になってくる。

・新人事制度について、昇職試験でのポイントのあり方等、多くの問題が山積しており、根本的に見直しを図った方が良いと考える。



菊地委員

関西地区本部福本委員
 ・JR東日本の組織問題について。JR連合が今後どのように取り組んでいくのか具体的に説明してほしい。



福本委員

家族が大事。だから、建物も家財も大事。

大切な家が災害にあつたら
火災共済/地震風水害共済

みんなてがいのしをガード
交運共済
日本鉄道労働組合連合会

大杉委員長による
 団結ガンバロー



JR連合第32回中央委員会開催する

「JR連合ビジョン」の実践を通じて組織強化を図り、JRで働く全ての仲間のJR連合への総集を図ろう！



JR連合は2月5日、JRホテルクレメント高松において第32回中央委員会を開催し、貨物鉄道労働からは、大杉委員長・鈴木青年部長・東海地区本部和田執行委員・南関東ロジ山田委員長が出席しました。委員会には、全国から総勢200名が参集し、安全の確立、2020春季生活闘争勝利、「JR連合ビジョン」の実践を通じた組織強化・拡大、政策課題解決などを柱とした当面の活動方針を、真摯な討議を経て満場一致で決定しました。

冒頭、壇上に立った茨山市朗会長は、「JR産業が社会の変化に対応して労使の持続的な発展を築いていくためには、JR連合の組織と運動を磨いて足元を固め、

組合員、会社、社会から信頼される運動を実践するとともに、JRグループ、JR産業に働くすべての仲間の総集をめぐって、「将来をしっかりと見据えた真の価値観を有する労働組合の存在は、JRにとって、地域にとって、そして日本にとって不可欠な存在。私たちはこうした労働組合を目指して、理念と具体的な運動を通じて、組合員はもとより、JR連合に加入していない多くの仲間、労使関係を構成する会社、世論など様々な関係主体に向けて訴えかけ、共感の輪を拡げていく」と訴えました。

人も保障も、頼りがいがあると安心できます。

セット加入でバワフル補償
マイカー共済(自動車総合補償)/自賠責共済

みんなてがいのしをガード
交運共済
日本鉄道労働組合連合会